

製品名: TFIID ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18830**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	TBP
別名	TBP; GTF2D1; TF2D; TFIID; TATA-box-binding protein; TATA sequence-binding protein; TATA-binding factor; TATA-box factor; Transcription initiation factor TFIID TBP subunit
遺伝子 ID	6908.0
SwissProt ID	P20226
免疫原	抗血清はヒト TBP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

背景

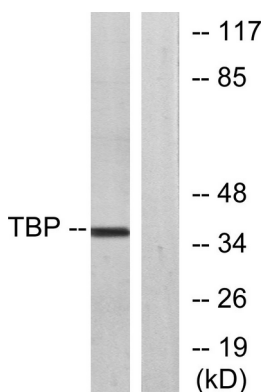
RNA ポリメラーゼ II による転写の開始には、70 を超えるポリペプチドの活性が必要です。これらの活性を調整するタンパク質が転写

因子 IID (TFIID) です。これはコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切に配置し、転写複合体の残りの部分を組み立てるための足場として機能し、制御シグナルのチャンネルとして機能します。TFIID は、TATA 結合タンパク質 (TBP) と、TBP 関連因子または TAF として知られる進化的に保存されたタンパク質群で構成されています。TAF は、基礎転写に関与し、コアクチベーターとして機能し、プロモーター認識に機能し、または一般転写因子 (GTF) を変更して複合体の組み立てと転写開始を促進します。この遺伝子は、TATA 結合タンパク質である TBP をコードしています。TBP の特徴的な特徴は、N 末端の長いグルタミン鎖です。このタンパク質領域は DNA 結合を調節する。疾患: TBP の欠陥は、脊髄小脳失調症 17 型 (SCA17) [MIM:607136] の原因である。脊髄小脳失調症は、臨床的および遺伝学的に多様な小脳疾患群である。患者は、脳幹および脊髄の様々な関与を伴う小脳の変性により、進行性の歩行協調運動障害、そしてしばしば手、発話、眼球運動の協調運動障害を示す。SCA17 は常染色体優性遺伝性の小脳失調症 (ADCA) であり、広範な大脳および小脳萎縮、認知症、および錐体外路症状を特徴とする。SCA17 における分子欠陥は、TBP のコード領域における CAG リピートの伸長である。伸長が長いほど、病気の発症が早まり、臨床症状がより重くなります。機能: DNA 結合多タンパク質因子 TFIID の中核として機能する一般的な転写因子。TFIID の TATA ボックスへの結合は、転写開始前複合体 (PIC) の最初の転写ステップであり、RNA ポリメラーゼ II によって転写された真核生物遺伝子の活性化に役割を果たします。多型: TBP のポリ Gln 領域は、正常者で高度に多型性 (25~42 反復) を示し、脊髄小脳失調症 17 (SCA17) 患者では約 47~63 反復に伸長しています。類似性: TBP ファミリーに属します。サブユニット: TBP 関連因子 (TAF) とともに TFIID 複合体に属します。転写因子 SL1/TIFIB 複合体の構成要素で、TBP と少なくとも TAF1A、TAF1B、TAF1C、および TAF3 から構成されます。モノマーとして DNA に結合します。TAF、TFIIB、NCOA6、DRAP1、DR1、および ELF3 と相互作用します。SPIB、SNAPC1、SNAPC2、および SNAPC4 と相互作用します。HIV-1 Tat と相互作用します。ATF2 転写活性のコアクチベーターとして機能する UTF1 と相互作用します。GPBP1 と相互作用します (相同性による)。BRF2 と相互作用します。組織特異性: 広く発現しており、精巣と卵巣で最も高いレベルで発現します。

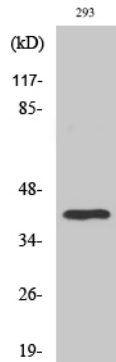
研究分野

基礎転写因子;ハンチントン病;

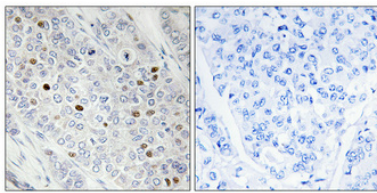
画像データ



TBP 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



TFIID ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。